

「連合 2024 平和行動 in 長崎」派遣団報告

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～

～平和ナガサキ集会に、国内・海外から約 2,000 名が参加～



長崎大学核兵器廃絶センター
吉田文彦センター長のお話

8月8日、「連合 2024 平和ナガサキ集会」は、長崎県立総合体育館メインアリーナを会場に、国内・海外から約 2,000 名参加者のもと開催された。連合福島からは、派遣団として藤田 隆司（白河地区連合 議長）を団長に 5 名が参加した。

高藤 義弘連合長崎会長は、「79 年前に長崎がどのようになったか、その実装に触れ、感じたことを地域や職場、家庭でも広めてほしい」 芳野 友子連合会長より「ロシアによる核の威嚇や米国の臨界前実験に触れ、核兵器を巡る国際環境は過去数十年で最悪レベルと言われている。日本政府には唯一の戦争被爆国として、核軍縮と核不拡散の強化に向けた外交努力を続けるよう求めていく」、大石 賢吾長崎県知事、鈴木 史郎長崎市長より、「核兵器廃絶と世界恒久平和は県民、市民の皆様にとっても共通する最終目標である。長崎を最後の被爆地との思いで粘り強く取り組んでいく。次の世代にバトンを繋いでいこう」との連帯の挨拶があった。国際労働組合総連合 ITUC リュック・トリアングル書記長の挨拶のほか、被爆者の訴えとして長崎平和推進協会 継承部会・築城 昭平さんの「被爆者の訴え」講和があった。さらに若者からのメッセージ「ナガサキ・ユース代表団」、「高校生平和大使」と続き、原爆被害の悲惨さと平和への思いを新たにされた。

8月8日、「連合 2024 平和ナガサキ集会」は、長崎県立総合体育館メインアリーナを会場に、国内・海外から約 2,000 名参加者のもと開催された。連合福島からは、派遣団として藤田 隆司（白河地区連合 議長）を団長に 5 名が参加した。

高藤 義弘連合長崎会長は、「79 年前に長崎がどのようになったか、その実装に触れ、感じたことを地域や職場、家庭でも広めてほしい」 芳野 友子連合会長より「ロシアによる核の威嚇や米国の臨界前実験に触れ、核兵器を巡る国際環境は過去数十年で最悪レベルと言われている。日本政府には唯一の戦争被爆国として、核軍縮と核不拡散の強化に向けた外交努力を続けるよう求めていく」、大石 賢吾長崎県知事、鈴木 史郎長崎市長より、「核兵器廃



連合平和ナガサキ集会场前での派遣団



平和記念像前での派遣団

翌 8 月 9 日、爆心地公園・平和公園などを巡る「ピースウォーク」に参加し、戦争や被爆の実相、平和の尊さをあらためて学んだ。昨今の国際情勢により、改めて核兵器使用の可能性が高まっている。被爆者は、自身の体験を通じて核兵器の恐ろしさを伝え、平和への願いを訴え、二度と同じ悲劇が繰り返されないことを願っている。核兵器は、世界の平和と安全に対する明白かつ現存する危険として今もなお存在している。使用されれば多くの犠牲を生むだけでなく、79 年たった今も苦しみは継続している。参加者からは「被爆者の声を聞くことで、平和の大切さを改めて感じた」との所感が寄せられた。

飛行機の遅延、地震、そして台風が接近する中での行動ではあったが、藤田団長の統率のもと、参加者が協力し一定の成果を上げられたことに感謝申し上げる。